

第22回 奥日光戦場ヶ原ハイキング

第4支部三共商事(株)
理事 小川秀一
平成17年6月5日

今回、初めての参加。乾氏からは「二十回ぐらいやっていますが、雨だったのは一回だけ。まず大丈夫です。雨だったら原因は小川さんって事になりますかね。」とのこと。そんな訳で2、3日前から天気が気になっていたが、当日を迎え、晴れ、上々のすべり出しである。5時05分に乗り込んだ電車を北千住駅で快速に乗り換え、車中で東武浅草駅からの本隊と合流、女性3名・男性11名の総勢14名となり、同好会始まって以来(?)の大人数。

8時24分 東武日光駅に到着。ここから湯元までは、幹事さんが予め手配してくれた貸切バスだ。幹事さんはさすがに気が利く。大勢のハイカーが定期バスに乗ろうと並んでいるのを横目に一足先に奥日光湯元へ。朝の澄みきった空気。駅前からは日光の旅館街を抜けて、暫くすると大谷川沿いにだんだんと緑が多くなってきた。

これから行く戦場ヶ原は、男体山とその西側の山々との間を南北に流れていた湯川が堰き止められて出来た大湿原で、北に湯ノ湖と南に中禅寺湖と2つの湖に挟まれた地域である。バスはいろは坂を抜け、中禅寺湖東岸を回って赤沼を經由し、これから歩く戦場ヶ原を左手に、直線道路を気持ち良く走りぬけて、約30分の行程で湯ノ湖のビジターセンタに到着した。奥日光の一番奥まで行って、歩いて南下する作戦だ。

15分の小休止、ここで乾氏からは貴重な情報。「ビジターセンタのパンは素朴ですが美味しいので、すぐ売り切れちゃうんですよ。私はカスタードにアプリコットと食パンを買いました。歩きながら食べる分とお土産です」ほ～。お土産にするほど美味しいのか！食べてみようという気になり、パンを買い込みリュックに詰める。

9時40分出発。ここからが本番である。湯ノ湖のすぐ西側の自然遊歩道を歩く。ミズナラ、ブナ、カエデといった自然林が続く。左側が崖、そこから生える木々のすぐ向こうは湖面だ。「水が本当にきれいだ!」「浅瀬で水が湧き出している!」時おり鮮やかなピンクの花が目を刺激する。「あら、きれいなツツジ!」「たしか、ヤシオよ!」「あのシャクナゲもきれえ～」。ここら辺はアズマシャクナゲが群生

し、シャクナゲだらけなのだ。

10時10分 突然、水辺が空中へと途切れ、こつ然と湯滝が現れた。落差75メートル。「豪快ですね」「水量が凄い!」「ちょっと流れにのって滑り降りたい気になりますね」「夏、気持ちいいでしょうね。でも、お尻がどうなるか」「角が取れて良いかも知れませんね」。下から見上げると、湯滝は絶景である。絶好のカメラアングルを求め、人も多い。ここでさっき買ったカスタードをほお張る。実に美味しい。

湯滝を過ぎると戦場ヶ原までミズナラの原生林が湯川に沿って続く。木道を歩く。「よく出来た庭園を歩いているようですね」「あっ!うぐいす。なんかホントいいところですよね」。なにやら向こうに7、8人が一列に集まっている。「つりかな?」「あれフライフィッシングの講習会ですか?」「シーッ!音を立てると怒られちゃいますよ」「…」。

10時50分 休憩所だ。テーブルもありここで小休止。戦場ヶ原に近づいたせいか視界が開けてきた。

「あっ!!鹿だ」「食べ物をねだりに来たんですよ」「何を食べるのかな」「あれ!もう一匹」「あれは親子ですよ。片方が小さいもの」。

11時20分 戦場ヶ原真ただ中だ。戦場ヶ原はうっそうと茂ったナラ林と、視界がいつぱんに広がった湿原とからなる。そのナラ林を白樺が縁取るように位置している。白い雲が浮かぶ青い空と緑の林、このコントラストが実に美しい。アップダウンが無いので、美しく整備された広大な庭園の中を木道で散歩している気分だ。湿原の中に白いものが点々と見えている「あの白いの、何ですかね!」「花かな?」（これが有名なワタスゲであった）

13時00分 小田代ヶ原に到着。途中、湿原を霧とともに小雨が通り過ぎたが大して濡れた訳では無い。有名な「草原の貴婦人」が目の前だ。ここの屋根のあるバス停が昼食場所だ。歩き始めて3時間ちょっと、少し疲れた。湯を沸かしてお茶にしましょう」「ウイスキーがありますよ!」さすが山に慣れた幹事は違う。(ここで食べたスモークチーズとベーコンは実に旨かった)

13時45分 十分に休息を取り、足取りも軽い。さあ、出発だ。一抱えもあるカラマツやミズナラの森を抜けて行く舗装道路は快適だ。通るのは時たま低公害バスだけ。森からは鳥の声も聞こえる。のどかな気分になった。話もはずむ。「ゼロ戦は星型エンジンでしょ」「プロペラがどうして廻るのか、どうも分からない。本当に廻るのかな!」「プロペラと本体がいっしょに廻るらしいんですよ」I氏は人差し指をグルグル廻しながら、ご自分の体も廻そうとしての説明だ。なかなかアカデ

ミックな話が聞けるのも、この同好会の良い所かも知れない。後ろに歩いている女性方も話に夢中だ。石楠花(しゃくなげ)橋を右に曲がり、湯川に沿って行くと帰りの貸切バスの待つ龍頭の滝(りゅうずのたき)である。

14時50分 龍頭の滝に到着。この滝の美しさは想像以上だ。戦場ヶ原から延々と流れてきた湯川が、210メートルもある急勾配を一気に走りぬけ中禅寺湖へ注ぐ。急傾斜の岩場が幾重にも小さな滝をつくり、その滝が連なって実に長い一つの大きな滝をつくり出している。滝の両側には濃いピンクや薄いピンクのヤシオツツジ、そしてオレンジの山ツツジが咲き競っている、まるで花の首飾りのように滝を引き立て、華やかにしている。滝沿いには階段の遊歩道。下りながら眺める滝は最高だ。「これは世界遺産に登録できないかな」「本当にきれいだ!」「季節的にも一番いい時に来ましたね」「前は紅葉でしたが、あれも良かった」。滝が終わったところでバスが待っていてくれた。

16時30分 バスが東武日光駅到着。駅前でお土産の生ゆばと地酒を買った。各人それぞれ、お土産を手に17時19分 日光を後にした。帰りは特急きぬ134号だ。帰りの電車はもちろん宴会です。参加された皆さん、本当に楽しい1日でしたね。お疲れ様でした。このハイキングを企画し、準備していただいた幹事の皆様有難うございました。本当に感謝!感謝!です。またよろしくお願ひします。次回はぜひ武甲山でお会いしましょう。(帰りの電車で生まれて初めて食べた“くさやの干物”も旨かった。)